

## 外国語（英語科）学習指導案

日 時 平成28年11月17日（木）

公開授業 I

会 場 2年A組教室

学 級 第2学年A組34名

（男子18名、女子16名、計34名）

授業者 T1 中野芳明

T2 内村 栞

1 単元名 Program 7 If You Wish to See a Change 【SUNSHINE ENGLISH COURSE 2】

2 単元について

### （1）教材観

セヴァン・カリス・スズキさんのリオでの伝説のスピーチ以後の彼女の成長を追いながら、環境破壊をはじめとするいろいろな問題に取り組み、「見たいと思う世界の変化にあなた自身がなりなさい」というガンジーのことばを引用して、行動を起こす必要性を説く彼女の生き方に触れることによって、生徒が自分の将来の生き方を考えるように促すことをねらいとしている。

文法事項としては〈動詞の-ing形〉（動名詞）、〈look＋形容詞〉、〈become＋形容詞〉、〈主語＋動詞＋人＋もの〉（基本文型）等の言語材料を学習する。

動名詞は「もうすでにしていること」、「今もしていること」を述べる場合に、主語や目的語として使われる便利な表現の一つである。

〈look＋形容詞〉は「外観が～だ」、「～のように見える」と知覚動詞の基本形となる。知覚動詞も生徒の英語の範囲を大きく広げることとなる。

〈主語＋動詞＋人＋もの〉は第4文型であり、英語独特の表現でこれもgive、show、buy、find、teach、tell等の基本動詞でも活用され、英語の表現範囲を大きく増やすことになる点で、しっかり身につけてほしい文法事項である。

### （2）生徒観

第2学年の生徒は中学校での英語学習が始まりおよそ半分が経過している。英語の学習に関しては興味・関心を持っている生徒は多いように見受けられるが、第1学年での学習内容が十分に身につけていない生徒やもう一度学習したいと考えている生徒が多く見られる。

また、「わかるようになりたい。」と考えている生徒が多くみられる。そのことと授業の活動において、学習していない英単語や表現を聞き取って理解しようとする姿勢や表現活動に取り組む様子の観察から判断できる。

一方で、授業の前に事前に取り組まなければならない「予習」の習慣については、その定着度は決して高いとは言えない。

また、学習内容の定着度の個人差に関わる実態も調査や定期テスト、実力テストの結果からも明らかになってきているので、個々に対応するよう、T2の協力を得るなどして進めていく必要がある。

学級の雰囲気は元気な生徒が多く、男女とも仲がよい。英語での自己紹介活動等でも臆することなく活動できる生徒が多い。また暗記に挑戦しようとしている生徒も見られた。今回の言語活動を通して、理解を深めるとともに生徒達の考えを積極的に発表できる態度を育てていきたい。

### (3) 研究との関わり

研究主題「一人ひとりが成長を実感できる指導のあり方 ～学びの自覚を促す振り返りを通して～」にせまるために、具体的にその姿をイメージして指導構想を考えていきたい。

そのポイントとして、本時の「ねらい」に即した課題を設定すること、次に考える場面と表現する場を設定すること、3つめに「ねらい」に即した「振り返り」の場面を設定して学習内容の理解について確認する授業を組み立てていく。

また「教師の役割」と「生徒の役割」にも焦点を当てて授業を組み立てていきたい。授業を成立させるための1つとして「生徒の役割」を意識させる。例として、予習をして授業に臨むこと、ペア学習やグループ学習では相手に伝わるよう適切に自己表現すること、相手がつまずいて十分に理解できていない様子ならば自分の分かる範囲で教えてあげたり、教師に質問をして確認したりすること等を「生徒の役割」ととらえ、生徒にも意識させ、定着させることでも「振り返り」につながるととらえて指導していきたい。

特に第2学年では、英語に対する苦手意識を持ち始めている生徒も少なくない。そこで、本校の研究内容と岩手県の教育指針である学習課題や学習プロセスの明示、学習活動におけるアクティブラーニングを効果的に取り入れて、簡潔に学習活動を進めていきたい。また「振り返り」も次時につながるよう活用し、学習内容の把握に結びつけ、自信を持って学習できるように指導していきたい。

## 3 単元の目標

### (1) 動作についていえるようにしよう

言語材料 動名詞（主格、目的格）、動名詞を目的語としてとる動詞等

I like playing tennis too.

Please stop breaking it. Severn started talking about her beliefs again.

### (2) 人や物の状態についていえるようにしよう。

言語材料 〈look + 形容詞〉で「外観が～だ」、「～のように見える」

You look really cool.

〈become + 形容詞〉

I became famous.

### (3) だれかに何かを与えるということはいえるようにしよう。

言語材料 〈主語 + 動詞 + 人 + もの〉は第4文型 give, show, buy, find, 等

I'll give you a present tomorrow.

I can give all the children food, clothes, medicine, and love.

Now we must be the change and give the earth a future.

4 指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 (ア)	外国語表現の能力 (イ)	外国語理解の能力 (ウ)	言語・文化についての 知識・理解 (エ)
① 「動名詞や〈look+ 形容詞〉などを用 いた英文について 「聞くこと」、「話 すこと」、「読むこ と」、「書くこと」 の言語活動に意欲 的に取り組もうと している。	① 「動名詞や〈look+ 形容詞〉などを用 いて英文で表現す ることができる。 ② 英文で書くことが できる。	① 「動名詞や〈look+ 形容詞〉などを用 いて書かれている 内容を正しく読み 取ることができる。 ② 表現された内容を 正しく聞き取るこ とができる。	① 「動名詞や〈look+ 形容詞〉などを用 いた英文の意味・ 構造を理解してい る。 ② それぞれの Section で取り上げられて いる内容を日本語 で説明できる。

(2) 単元の指導計画

時間	○ねらい・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○ 動名詞を使った表現を知り表現する。 ・ 動名詞を使って表現する。 ・ 動名詞を使った文の構造や意味を理解する。	ア①、イ①② ウ②	ワーク 観察
2 本時	○ Section 1 を読み休日に何をするかとらえる。 ・ 動名詞を用いた文の内容を理解する。 ・ Section 1 の英文のポイントをとらえる。	ア① ウ①	ワーク
3	○ 〈look + 形容詞〉を使った表現を理解する。 ・ 〈look + 形容詞〉を使って表現する。 ・ 〈look + 形容詞〉を知り意味を理解する。	ア①、イ①② ウ②	ワーク 観察
4	○ Section 2 を読み情報をとらえる。 ・ 〈look + 形容詞〉を使った英文を理解する。 ・ Section 2 のポイントをとらえる。	ア① ウ①	ワーク
5	○ 〈主語 + 動詞 + 人 + 物〉の文型を理解する。 ・ 〈主語 + 動詞 + 人 + 物〉の構造や意味を理 解する。 ・ 〈主語 + 動詞 + 人 + 物〉を使って表現する。	ア①、イ①② ウ②	ワーク 観察
6	○ Section 3 を読み数を聞く表現をとらえる。 ・ 〈主語 + 動詞 + 人 + 物〉の表現を理解する。 ・ Section 3 のポイントをとらえる。	ア① ウ①	ワーク
7	○ Program 7 の単元としての「振り返り」	ア①、イ①② ウ②、エ①	ワーク テスト

5 本時の目標

(1) 指導目標

スピーチを聞き取り、その内容を伝えようとする。

(2) 本時の展開

◎は評価

段階	学習項目	学習活動	指導上の留意点
導入 (5)	0 準備 Prep. 1 挨拶 Greetings	0 道具を準備し、教科書を読む 1 挨拶 ・先生方と挨拶 ・生徒どうしで挨拶	※1年生の復習と前時の振り返り
	2 ウォーミングアップ Warm Up	2 プリントと発表あるいはリスニング	
	3 学習課題提示	セヴァンのスピーチで、共感したことを伝えよう。	
展開 (40)	4 本文の内容理解 ・全体把握 ・新出単語 ・音読練習 5 内容説明	・T1とT2の会話の内容理解 ・発音練習 ・一人で、ペアでの音読練習  ・動詞を中心とした説明	◎音読に取り組んでいるか。
	6 セヴァンのスピーチ① ・内容理解 ・口頭練習 7 表現の理解 ・口頭練習 ・発表練習	・*DVDを見ての内容の聞き取りや、内容理解 ・ペアでの口頭練習  ・共感したことを伝える準備 グループでの口頭練習 ・自分が共感した部分の発表	◎伝えようとしているか。
終末 (5)	8 本時のまとめ 9 次時の予告	・「振り返りシート」への記入	◎授業後集めてチェックし、必要に応じてフィードバックする
	10 挨拶 Greetings		

※ \*DVD SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 スクール版 DVD [資料編] Vol. 2 開隆堂

スピーチ① Hello, I'm Severn Suzuki speaking for E.C.O.-The Environmental Children's Organization. We are a group of twelve and thirteen-year olds trying to make a difference: Vanessa Suttie, Morgan Geisler, Michelle Quigg, and me. We raised all the money to come here ourselves to come five thousand miles to tell you adults you must change your ways.

I am here to speak for all generations to come. I am here to speak on behalf of the starving children around the world whose cries go unheard. I am here to speak for the countless animals dying across this planet because they have nowhere left to go. I am afraid to go out in

the sun now because of the holes in our ozone. I am afraid to breathe the air because I don't know what chemicals are in it.

6 板書計画

Thursday November 17th Sunny about 1:35

Today's Goal Program 7 If You Wish to See a Change

What must we do to save the earth? = We must change our lifestyle.

(If we can't fix the environment, we must stop breaking it.)

できない 壊すこと㊦

If you can't fix the environment, please stop breaking it.

元通りにする 止めてください

Severn said this to the world leaders at the Earth Summit in Rio in 1992.

言った

She was only twelve years old.

= だった

She also said, "We are all part of a big family."

言った = です

しなければならない

She thought that we must change our lifestyles to save the animals and plants.

思った 変える 救うために

話すこと㊦

Years later, Severn started talking about her beliefs again.

始めた